

後志アイヌ民族フィールドワークのご案内

主のみ名を讃美いたします。主に励まされ宣教の業にお励みのことと存じます。

今年のフィールド・ワークは余市教会の協力のもと、後志地区にてアイヌ民族の学びと出会いを持ちます。

一日目は、余市のアイヌ民族関連のお話などのミニ講演と共に、後志地区のみなさんと交流をもちます。翌日は近隣のアイヌ民族に関連する場所をめぐる予定です。

後志の皆さんと実際に出会い、交わり、学び、豊かな時を持つべく、広く教区内の皆さんにご案内申し上げます。

— 記 —

日 時 2013年10月6日(月) 午後6時集合 ～ 7日(火)正午まで

場 所 余市教会集合(現地への交通費自己負担)

余市郡余市町黒川町1-17 電話0135-22-3758 (小西陽祐牧師)

費 用 2,000円(布団レンタル、二日目昼食費は別途自己負担願います)

部分参加(夕食300円、朝食200円)

内 容 ミニ講演・フィールドワーク

余市のアイヌ民族(小西陽祐余市教会牧師)

アイヌ民族政策の現状(三浦忠雄アイヌ民族情報センター主事)

フゴッペ遺跡(またはローソク岩、遺跡発掘調査)

※作業ができ、長袖・長ズボンの服装をご用意ください。

※ 配車の都合がありますので参加希望を9月28日締切りで下記まで郵送。

FAX.またはメールを下さい。

〒077-0032 留萌市宮園町3留萌宮園伝道所

0164-43-0128 E-mail ororon@jade.plala.or.jp

主催：北海教区アイヌ民族情報センター

協力：余市教会

===== 申し込み =====

お名前 _____

連絡先 _____

ご住所 _____

希望者は○を 教会泊希望 (寝袋持参 布団を借りたい 1000円別)

ミニ講演 1 「余市のアイヌ民族」 (仮題)

余市のアイヌ民族について、小西陽祐さんにお話し頂きます。余市はアイヌ民族の詩人違星北斗の出身地であり、フゴッペ遺跡やローソク岩などアイヌにまつわる話が伝えられている地があります。余市の魅力もふくめてお話を伺います。

ミニ講演 2 「アイヌ民族政策の現状」 (仮題)

日本政府は2008年6月の衆参両会議にて「アイヌ民族を日本の先住民族とすることを求める決議」を全会一致で採択し、現在、「アイヌ政策推進会議」(2009年12月)を組織して、アイヌ民族の施策を練っています。その後の進み具合と問題を分かち合います。

後志に関連するアイヌ民族関連

違星北斗

アイヌ民族の詩人違星北斗は1902年1月1日に余市で出生。本名は違星滝次郎。小学校を卒業後、鯊漁場や、木材人夫、鉾山労働者で生計を立て、16歳のとき当時不治の病であった結核を患う。23歳のとき、東京府市場協会の事務員に雇われ、一年半を東京で過ごす。しかし、彼は自分がアイヌだからと人々に珍しがられる東京での生活に疑問をもち、また、アイヌ同胞の自立に、その身をささげることが使命だと思い、北海道へ戻りコタンで生活します。そのころの気持ちを、「アイヌの研究はアイヌの手でやりたい。アイヌの復興はアイヌがしなくてはならないという強い希望に唆され、嬉しい東京を後にして再びコタンの人となった。」(『違星北斗遺稿コタン』草風館1984)と、述べています。

その後、アイヌとしての自己の地位に深く苦悩し、民族復興の使命を痛感し、アイヌの地位向上のための運動をしながら短歌、俳句を書き、機関誌『コタン』を創刊しますが、志半ばで1929年、27歳で死去。

平取に／浴場一つ／ほしいもの 金があつたら／たてたいものを

<http://haiku.velvet.jp/study%20of%20ibosi%20hokuto.htm> 参照

フゴッペ遺跡

岩壁に刻画を残す洞窟遺跡。200 を超す刻画があり、人が仮装したようなものから舟、魚、海獣、4本足の動物のようなものがある。角や翼で仮装した人像が多く、これはシャーマンを表したものと推察され、何らかの宗教的儀礼の場であったのではないかと考えられている。洞窟は堆積土層から発見された土器や骨角器の分析から、およそ 2000～1500 年前の続縄文期に属する遺跡であることがわかっている。

<http://www.town.yoichi.hokkaido.jp/anoutline/bunkazai/fugoppe.htm> 参照



ローソク岩

ローソク岩は豊浜町の沖合約500mの海上にそそり立っている。火山活動の結果でできあがったハイアロクラスタイト(溶岩が水中で冷やされたもの)から成り、もろい性質を持った岩で、これまで何度か崩落が繰り返されたよう。

ある伝説では、豊漁の海だったローソク岩付近の海に赤い炎の神が現われて魚を焼き殺してしまうので、アイヌの若者が夢のお告げに従って赤銅の兜と剣で戦って勝利し、その剣がローソク岩になったという話。また、アイヌの娘が海藻とりに夢中になって女人禁制のローソク岩に誤まって登ってしまったことが神様の怒りに触れ、魚が全く採れなくなり、村人がおわびの気持ちを込めてお祈りをしたところ神様の許しが得られ、その証拠にローソク岩の突端が丸く光り、その後は以前の豊漁の海に戻ったというお話があります。

<http://www.town.yoichi.hokkaido.jp/anoutline/yoichistory/sono117/sono117.html> 参照

